

加入国際学術団体に関する調査票

1 国際学術団体活動状況（内規第 11 条 活動報告）

団体名	和	太陽地球系物理学科学委員会
	英	Scientific Committee on Solar-Terrestrial Physics (略称 SCOSTEP)
	団体 HP (URL)	https://scostep.org/ (日本学術会議が加盟していることの記載 (有) ・ 無)
国際学術団体における最近のトピック (学術の進歩、当該団体の推進体制の変化、国際機関・政府・社会との関わり方等)		急速に拡大する人類の宇宙活動の安全・安心な遂行や地球の気候変動は、人類にとって喫緊の課題になっている。このため SCOSTEP は、変動する太陽活動が地球周辺の宇宙空間の利用や地球気候に与える影響の理解と予測を目的として、2020-2024 年に「Predictability of variable solar-terrestrial coupling (PRESTO)」(変動する太陽地球結合系の予測可能性)を推進している。2019 年 7 月に SCOSTEP の会長に選出された名古屋大学の塩川和夫教授は 2023 年 7 月に会長に再任され、引き続き、このプログラムを国際的に主導してきた。また、PRESTO プログラムの後継となる次期 5 か年計画を策定する委員会を組織し、2024 年に日本 (6 月) とイタリア (10 月) で 2 回の対面の会合を行って、2026 年から開始される次期計画をまとめつつある。また、SCOSTEP は国連宇宙平和利用委員会 (UN/COPUOS) の恒久オブザーバーであり、塩川会長を中心として毎年この委員会で活動報告と太陽地球系物理学に関する啓発活動を行っている。また、SCOSTEP は 4 年に 1 回、Solar-Terrestrial Physics (STP) シンポジウムという国際研究集会を開催しており、第 15 回のシンポジウムが 2022 年 2 月 21-25 日にインドをホスト国としてオンラインで開催された。次回は 2026 年 6 月にギリシアで開催されることが理事会で決定されている。
当該国際学術団体が対応する分野において学術の進歩に貢献した事例		SCOSTEP が 2020-2024 年に推進した国際 5 か年計画 PRESTO プログラム(変動する太陽地球結合系の予測可能性)では、コロナ禍にも関わらず 5 年間で 36 件の国際会議、14 件のデータベース構築や 1 件の国際キャンペーン観測を支援し、世界 70 か国以上から 2000 名以上の研究者が参加するなど、太陽地球系物理学の大きな流れを作り、変動する太陽地球結合系の予測可能性についての研究が大きく進展した。日本は SCOSTEP の会長がこのプログラムを主導し、3 か月に 1 回の国際ニュースレターを発行したり定期オンラインセミナーを運営したりするなど、日本の貢献も大きい。
政策提言や世界の潮流になりそうな研究テーマ・研究方法・研究助成方式等		PRESTO プログラムでは、3 つの pillar(柱)が設けられており、その中には短期・長期の太陽活動変動が地球及び地球周辺の宇宙環境に及ぼす影響の予測研究が含まれている。急速に拡大する人類の宇宙活動において、これらの研究は、宇宙利用や地球環境変動予測に関連した政策決定上、重要な事項となりうる。また、太陽地球系の各領域は複雑に絡み合っており、全体を一つのシステムとして理解することが重要である。その観点から、オゾン層破壊や地球温暖化に関しても、

	<p>SCOSTEP が所掌する研究対象となっており、得られた成果は、加盟各国の政策等に反映される可能性がある。</p> <p>PRESTO プログラムとその前の VarSITI プログラム(2014-2018) では、毎年実施する公募形式で、国際研究集会の開催支援やデータベース構築、キャンペーン観測の実施支援を行ってきた。これらの活動を通して、世界の研究者がこのプログラムに参加し、太陽地球系物理学分野が 5 年ごとにフォーカスした方向性をもって発展していくことの一助になっている。</p>
<p>日本人役員によるイニシアティブ事項や日本の参加によって進展や成果があった事例</p>	<p>SCOSTEP が主導する PRESTO や VarSITI などの国際協同観測研究計画は、各国の提案を受けて、科学委員会（ワーキンググループ）、理事会、総会の議を通して決定される。それらの計画の中間評価と総括のために我が国は節目に国際シンポジウム（1979 年 IMS シンポジウム（東京）、1983 年 MAP シンポジウム（京都）、1994 年 STEP シンポジウム（仙台）、2000 年 S-RAMP シンポジウム（札幌）、2007 年 CAWSES シンポジウム（京都）、2013 年 CAWSES-II シンポジウム（名古屋））2019 年 VarSITI ワークショップ（名古屋）を開催した。2009-2013 年の CAWSES-II プログラムでは京都大・津田敏隆教授が、2014-2018 年の VarSITI プログラムでは名古屋大・塩川和夫教授がそれぞれ国際共同議長を務め、プログラムの成功に大きく貢献した。その間、我が国が主導した各種科学衛星（あけぼの、ジオテイル、れいめい、ひので、あらせ等）や、大型地上観測機器（MU・PANSY・EISCAT レーダーへの参加、地上多点観測網など）により、太陽・地球電磁圏・中層大気の構造とダイナミクスの理解など、顕著な成果をあげるにいたっている。</p> <p>2019 年 7 月からは、名古屋大学の塩川和夫教授が日本からは初めて SCOSTEP の President（会長）に選出され、さらに 2023 年 7 月に再選されて 2027 年まで務めることになっている。また、同じく 2019 年に名古屋大学の三好由純教授が COSPAR からのリエゾンとして、理事に着任した。さらに 2021 年 9 月から、情報通信研究機構の石井守博士が、WDS からのリエゾンとして理事に選出された。これにより、SCOSTEP の会長と、理事 8 名のうち 2 名が日本人という体制になり、SCOSTEP の運営に日本が大きく貢献している。</p>
<p>当該団体に加入していることによる日本学術会議、学会、日本国民にとってのメリットや変化</p>	<p>太陽地球系物理学の分野では、サイエンス面での優位性だけでなく、研究集会や国際協同事業におけるイニシアティブの面においても日本の存在感が非常に大きい。1957 年に実施された IGY から継続して IMS(1976-1979)、MAP(1982-1985)、STEP(1990-1997)、PSMOS/EPIC/S-RAMP(1998-2002)、CAWSES(2004-2008)、CAWSES-II(2009-2013)、VarSITI(2014-2018)、PRESTO(2020-2024)といった国際協同観測研究計画では、日本が積極的に参加し、かつ主導的な役割を果たしてきている。先端的観測プロジェクトの推進、各種国際スクールの実施、国際シンポジウム・オンラインセミナーの実施、海外の著名な研究者の招聘、若手研究者の海外派遣事業などを通じて国内外の若手研究者の育成に効果があった。ISC 傘</p>

	下の委員会の中でも日本の貢献が特に顕著な委員会であり、わが国のステータス向上に資するところは大きい。また、 SCOSTEP は国連宇宙平和利用委員会 (UNCOPUOS) の高級オブザーバーであり、 SCOSTEP を通して国連にも発信することができる。
その他（若手研究者・女性研究者育成法、科学者の倫理に関する当該国際学術団体の基本方針や憲章、資金提供ソースの発掘における画期的な方策等の特記事項など）	SCOSTEP は、若手育成、発展途上国支援に特に力をいれており、活動支援の中でも Capacity Building への予算配分が大きい。発展途上国の若手研究者・大学院生を国内外の著名研究機関に派遣する Visiting Scholar プログラムなど特徴ある制度を導入している。また、役員等のジェンダーバランスにも配慮を行っている。

2 今後の予定について（内規第 11 条 活動報告）

総会、理事会の日本開催の予定（招致等の予定も含む）	2013 年に CAWSES-II シンポジウム、2019 年に VarSITI Summarizing Workshop, 2024 年に SCOSTEP 次期プログラム策定委員会を日本で開催している。名大・塩川教授が現在の President であるので、今後も各種会合が日本で開催される可能性がある。コロナ禍以降は、年 2 回の定例理事会はオンラインで開催されている。
日本人の役員立候補等の予定	2019 年から名大・塩川教授が President （会長）、名大・三好教授が Bureau member （理事）を務めている。また、2021 年 9 月から、NICT・石井守室長(当時)が Bureau member （理事）を務めている。科学領域代表(SDR)には、日本からは現在 2 名の研究者が選ばれている。どの役職も任期は 4 年で、再任されることにより、最長で 8 年務める可能性がある。
現在、検討中の日本からの提言や推進するプロジェクト等の動き	現在、 SCOSTEP では 2026 年から開始する次期国際 5 年計画の策定が進んでいる。日本からは、 SCOSTEP-STPP 小委員会が中心となって 2024 年 5 月に提案をまとめ、 SCOSTEP の次期プログラム策定委員会に提案している。

3 国際学術団体会議開催状況（内規第 11 条 活動報告）

総会・理事会・各種委員会等の状況（過去 5 年間及び今後予定されているもの）	総会開催状況	科学総会（ STP シンポジウム） 2026 年 6 月（予定、開催地：ギリシャ・テッサロニキ） 2022 年 2 月（開催地：オンライン（主催：インド）） 代表者会議（総会） 2025 年 9 月（開催地：ポルトガル・リスボン）、2023 年 7 月（開催地：ドイツ・ベルリン）、2022 年 2 月（開催地：オンライン）
	理事会・役員会等開催状況	理事会 2025 年 4 月（予定、開催地：オーストリア・ウィーン）、2024 年 12 月（予定、オンライン）、2024 年 7 月（オンライン）、2023 年 12 月（オンライン）、2023 年 7 月（開催地：ドイツ・ベルリン）、2022 年 11 月（オンライン）、2021 年 12 月（オンライン）、2021 年 5 月（オンライン）、2020 年 12 月（オンライン）、2020 年 4 月（オンライン）

	各種委員会 開催状況	<p>次期プログラム策定委員会：2024年10月（開催地：イタリア・ローマ）、2024年6月（開催地：日本・名古屋）</p> <p>PRESTO 運営委員会：2024年11月（予定、開催地：ブラジル・サンパウロ）、2020年から毎年2回程度、オンラインで開催</p> <p>賞推薦委員会：毎年秋にオンラインで開催</p> <p>賞選考委員会：毎年冬にオンラインで開催</p> <p>メンバーシップ委員会：メール審議及び理事会での議論</p> <p>SCOSTEP Visiting Scholar (SVS)選考委員会：毎年2月にオンラインで開催</p>		
	研究集会・会議等開催状況	<p>VarSITI や PRESTO プログラムに関連し、毎年数件から20件程度の国際研究集会や、年間数件の大学院生・若手研究者向けの国際スクールを、SCOSTEP 経費で支援・開催している。代表的なものを以下に示す。</p> <p>PRESTO ワークショップ 2024年11月（開催地：ブラジル・サンパウロ）、PRESTO ワークショップ 2023年6月（開催地：イタリア・トリエステ）、VarSITI まとめワークショップ 2019年11月（開催地：日本・名古屋）、VarSITI 最終シンポジウム 2019年6月（開催地：ブルガリア・ソフィア）、</p>		
上記会議等への日本人の参加・出席状況及び予定	<p>2024年10月次期プログラム策定委員会（開催地：イタリア・ローマ）、2名</p> <p>2024年6月次期プログラム策定委員会（開催地：日本・名古屋）、7名</p> <p>2023年7月代表者会議（総会）（開催地：ドイツ・ベルリン）、1名（代表派遣：塩川和夫）</p> <p>2023年6月 PRESTO ワークショップ（開催地：イタリア・トリエステ）、2名（代表派遣：塩川和夫）</p> <p>2022年、科学総会（STP-15 シンポジウム）（開催地：オンライン）、10名（代表派遣：塩川和夫・三好由純）</p> <p>2021-2024年 理事会（オンライン）、2-3名</p>			
国際学術団体における日本人の役員等への就任状況（過去5年）	役職名	役職就任期間	氏名	会員、連携会員の別
	会長 (President)	2019～	塩川和夫	(26期) 連携
	理事 (Bureau)	2019～	三好由純	
	理事 (Bureau)	2021～	石井守	
	科学領域代表 (SDR)	2020～	余田成男	
	科学領域代表 (SDR)	2023～	大塚雄一	
出版物	<p>1 定期的 SCOSTEP Annual Report (年1回) SCOSTEP/PRESTO newsletter (年4回)</p> <p>2 不定期 Comic Books in more than ten different languages</p>			
<p>活動状況が分かる年次報告等があれば添付又は URL を記載</p> <p>SCOSTEP Annual Report: https://scostep.org/resources/annual-reports/</p> <p>SCOSTEP/PRESTO Newsletter: https://scostep.org/newsletter-archive/</p>				

4 国際学術団体に関する基礎的事項（内規第3条、4条、5条）

国内委員会 (内規4条第3号)	委員会名	地球惑星科学委員会・国際連携分科会・SCOSTEP-STPP 小委員会
	委員長名	塩川 和夫
	当期の活動状況	<p>(開催日時 主な審議事項等)</p> <p>第一回 令和5年11月13日 15時00分-16時00分 主な審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長/副委員長/幹事の決定について ・SCOSTEP 関連活動に関する情報交換 ・STPP 関係活動に関する情報交換、 <p>第二回 令和6年5月16日 15時00分-16時00分 主な審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SCOSTEP の次期5ヶ年プログラム策定に対して、日本からのインプットする情報の議論 ・SCOSTEP 及び PRESTO プログラム(2020-2024)の活動に関する情報交換 ・STPP 関係の活動に関する情報交換
内規第3 (国際学術団体の要件関係)		<p>国際学術交流を目的とする非政府的かつ非営利的団体である</p> <p>①. 該当する 2. 該当しない ※根拠となる定款・規程等の添付又は URL を記載 (http://www.)</p> <p>各国の公的学術機関及び学術研究団体等が国際学術団体に国を代表する資格を有して加入するものが、主たる構成員となっている(主たる構成員が、いわゆる「国家会員」であるか否か)</p> <p>①. 該当する 2. 該当しない ※根拠となる資料の添付又は URL を記載 (http://www.)</p> <p>下記の事項(ア～エ)のいずれか一つに該当するか(該当するものに○印)</p> <p>ア 個々の学術の専門分野における統一かつ世界的な組織を有するもの</p> <p>① 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、統一かつ世界的な組織を有するもの</p> <p>ウ 研究の領域が複数の専門分野にわたるものであって、ア又はイの国際学術団体を連合した世界的組織を有するもの</p> <p>エ 構成員のうち、各国代表会員がアジア地域等我が国が関係する地域等に限られるものであって、当該国際学術団体の研究の領域が複数の専門分野にわたるもの</p> <p>10 カ国を超える各国代表会員が加入している</p> <p>①. 該当する 2. 該当しない</p> <p>加入国数及び (36ヶ国)</p>

	<p>主要な各国代表会員を 10 記載</p>	<p>・各国代表会員名／国名 National Academy of Sciences, USA Russian Academy of Science, Russia Australian Academy of Sciences, Australia Chinese Society of Space Research, China Institut National des Sciences de l'Univers, France German Research Organization, Germany Science and Technology Facility Council, UK Indian National Science Academy, India Norwegian Space Centre, Norway Indonesian Space Agency (INASA), Indonesia</p>
--	-----------------------------	---

(参考)

国内関係学協会（主要 7 団体）

日本地球惑星科学連合、地球電磁気・地球惑星圏学会、太陽研究者連絡会、日本天文学会、日本気象学会、日本物理学会、電子情報通信学会